

# デーリー東北 2026年(令和8年)4月1日(水曜日) (10)

## 昭和の生活文化記憶共有

### 八工大・戴研究室ホームムービー上映会

**八戸** 八戸工業大感性デザイン学部戴周助教の研究  
室が28日、家庭に眠るホームムービーの映像を公募し  
上映する「ホームムービーの日in八戸2026」を、八戸市の番町サテラ  
イトキャンパス「ばらばら」で初開催した。来場者は昭和の街並みや地域行  
事など生活文化を記録した映像を鑑賞し、懐かしい記憶を共有しながら、フ  
イルムの資料価値の高さや味わい深い魅力を感じた。  
(佐藤周平)



トーク企画でホームムービーの魅力語る(右から)  
馬淵愛さん、宮澤愛さん

県内外から約20人が来  
場、公募した映像のうち、  
同市の木村栄さん(65)が  
提供した8ミリフィルム5  
本を上映した。祖父の故  
一栄さんが1980年代  
に撮影したもので、尻内  
地区の小学校の運動会や  
子どもの相撲大会、みこ  
しや仮装の行列でにぎわ  
う地元の祭り、当時の八  
戸駅や長根体育館などの  
建物が映し出された。  
上映中に木村さん自ら  
映像について説明し、「行  
事集まる子どもの多さ  
や、当時の市民の服装な  
どを見ても時代の変化を  
感じる」と感慨深げに語  
った。

東京でホームムービー  
の上映会に携わる宮澤愛  
さん(八戸市出身)と馬  
淵愛さんがゲスト出演。  
2人が持ち寄った8ミリフ  
ィルムで、82年に東北新  
幹線が開業した時の盛岡  
駅の光景や、昭和30年代  
に山形市民が撮影した子  
どもの成長記録や家族旅  
行などのほほ笑ましい映  
像も披露された。  
上映後に2人と戴助

## 街並み、行事味わい深く

### 家庭に眠る映像公募企画 上映後にトーク企画

教、八戸クリニック街か  
どミュージアムの小倉学  
館長によるトーク企画を  
行った。東京の京橋で上  
映会を続ける宮澤さんは  
「町内会の会合で人が集  
まる時に、地域のお祭り  
など昔を振り返る映像を  
流す。再開発が進む今、  
街並みの映像を記録して  
残す活動にも取り組んで  
いる」と事例を紹介した。  
府中市の上映会に関わ  
る馬淵さんは「ホームム

ビーは地域コミュニテ  
ィーの記憶を掘り起こす  
ことに加え、歴史や教育  
など多様な切り口で楽し  
める」と魅力を語った。  
この日は戴助教の授業  
やゼミを受講する同学部  
の2、3年生が会場設営  
や上映会の運営を担当。  
無声の映像を上映する際  
に、学生がギターの伴奏  
で演出する場面もあっ  
た。

※この記事・写真等は、デーリー東北新聞社の承諾を得て転載しています。



懐かしい映像が上映された会場